

高島での エコツーリズムの歩み

高島市は、琵琶湖から里地、里山にかけて古くからの農山村漁村集落が点在し、中央分水嶺から琵琶湖に注ぐ「水の流れ」がくりあげた様々な暮らしや文化、日本の原風景というべき風土が育まれてきた地域です。こうした資源を活用し、合併前からそれぞれの地域で、訪れる方々に地域の良さを伝える取り組みや環境保全を推し進める地道な活動が行われてきました。

そして、平成16年には、こうした

《モデル事業実施地区》

1. 豊かな自然の中での取り組み
 - ・ 知床地区（北海道斜里町及び羅臼町）
 - ・ 白神地区（青森県西目屋村及び秋田県藤里町）
 - ・ 小笠原地区（東京都小笠原村）
 - ・ 屋久島地区（鹿児島県上屋久町及び屋久町）
2. 多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み
 - ・ 裏磐梯地区（福島県北塩原村）
 - ・ 富士山北麓地区（山梨県）
 - ・ 六甲地区（兵庫県神戸市）
 - ・ 佐世保地区（長崎県佐世保市）
3. 里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み
 - ・ 田尻地区（宮城県田尻町）
 - ・ 飯能・名栗地区（埼玉県飯能市及び名栗村）
 - ・ 飯田地区（長野県飯田市）
 - ・ **湖西地区（滋賀県）**
 - ・ 南紀・熊野地区（三重県、和歌山県）

里地里山の身近な自然、地域産業や生活文化を活用した取り組みが認められ、環境省より、環境保全と観光振興の両立を目指すエコツーリズム普及のためのモデル地区として、屋久島や白神山地区と共に全国13地域の1つに指定されました。

さらに、高島の水と寄り添う暮らしを描いたテレビ番組「映像詩 里山」命めぐる水辺」が放送され、全国的に注目を受けることも、国際的な映像コンクールでグランプリを受賞するなど高い評価を受けたことにより、地域資源に対する意識が変わりエコツーリズムに対する地域の気運が高まってきました。

さらなる地域の活性化 に向けた仕組みづくり

平成18年4月には、地域の素晴らしい資源を一体的に活用した観光（エコツーリズム）による地域振興策として定めた「びわ湖・里山観光振興特区計画」を定め、県内4番目の滋賀県経済振興特区として認定を受け、エコツーリズムを具体的な経済振興につなげる仕組みづくりがスタートしました。

《認定後2年間の具体的な取り組み》

○ **特区事業者支援**
地域のモデルとなるエコツーリズムやグリーンツーリズムを行う事業者の支援



○ **プロデュース体制整備**
観光協会の合併により市内事業者の協調連携を図り、市内全域を対象とした効果的な情報発信、誘客活動を担うプロデュース体制の整備

○ **観光おもてなし人材育成**

地域の良さを伝える人材を育成する観光おもてなし研修会の開催

○ **観光目玉創出**

地域が大切に守ってきた登山道を、高島市の誕生と共に一筋の道として整備し、全長80kmに及ぶ中央分水嶺「高島トレイル」が昨年10月に全線開通。全国に誇れるロングトレイルとして、登山・自然愛好家の注目を浴びています。

こうした取り組みと地域の観光関係者の皆さんの努力により、毎年着

地域の魅力を 地域の人の手で

市内には、奥山から琵琶湖に至る豊かな自然や風景が12もの「百選」に選ばれているほか、重要な文化的景観の「海洋・西浜・知内の水辺景観」に代表される自然と寄り添う生活文化がそれぞれの地域で息つき受け継がれています。また、古来より鯖街道に代表される人々の往来によって大陸文化と都の文化を受け継いだ多様な文化や歴史的な風土が残されています。

このように、高島では、都会が失ってしまったかつては日本のどこにもでもあった風景や暮らしが息づく本



全国エコツーリズム 大会に向けて

実際に観光入り込み客数や特産品販売額が増加していることに対し、7月に開かれた県版特区評価委員会で高い評価を頂きました。

全国エコツーリズム大会は、NPO法人日本エコツーリズム協会と自治体の共催で過去6回全国の先進的な地域で開催され、今年度は、同協会の創立10周年とエコツーリズム推進法を祝う記念大会として位置づけられ、洞爺湖（北海道）、小笠原（東京都）、高島市の全国3地域で開催されます。



来の日本の姿を見ることができません。これらの一つ一つは、決して世界遺産や日本で唯一といったものではありませんが、地域にとっては先人から受け継がれ次世代へつないでいく大切な宝物であり、都会で暮らす人にとっても貴重で魅力のあるものです。

だからこそまず地域で暮らす私たちが、その価値をもう一度見つめなおし、未来へつなぐ働きかけが、地域の魅力を引き出すこととなるのではないのでしょうか。そして、地域の誇りとして価値を高め、魅力を伝えることにより訪れる方に感動を与えられることができ、高島ならではのエコツーリズムの出発点となるのではないのでしょうか。



当地大会では、「水」と「人」が深いかわりを持ちながら生まれてきた暮らしや、その暮らしの中で先人の知恵と工夫が作り上げてきた「食」にスポットライトを当て、来年2月5日から7日にかけて市内全域で開催します。

大会では、シンポジウムや市内全域を6コースに分けたモデルツアーを行い、高島を全国にPRするとともに、高島の魅力をお越しいただいた方と共に考え、今後の継続的な取り組みにつなげる契機としていきたいと考えています。

現在、地域の関係者の皆さんが実行委員会組織を立ち上げ、開催に向けた準備を進めていただいています。市民の皆さんには、大会内容が決まり次第お知らせします。この大会を通じて高島のエコツーリズムを共に考えてみましょう。

図商工観光課

☎(075)881-4